

2025年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）



2025年8月8日
東・名

上場会社名 日本エコシステム株式会社 上場取引所
コード番号 9249 URL <https://www.jp-eco.co.jp/>
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 松島 穰
問合せ先責任者（役職名） 取締役管理本部担当（氏名） 稲生篤彦（TEL）0586 - 64 - 9249
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2025年9月期第3四半期の連結業績（2024年10月1日～2025年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年9月期第3四半期	8,221	25.9	313	△36.2	342	△34.0	413	36.4
2024年9月期第3四半期	6,531	17.8	491	△12.9	518	△12.3	303	△61.6

（注）包括利益 2025年9月期第3四半期 431百万円（ 37.9％） 2024年9月期第3四半期 312百万円（ △63.4％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年9月期第3四半期	47.53	46.91
2024年9月期第3四半期	36.33	35.54

当社は、2025年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しております。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年9月期第3四半期	14,292	5,762	39.7
2024年9月期	9,259	5,473	58.3

（参考）自己資本 2025年9月期第3四半期 5,671百万円 2024年9月期 5,394百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年9月期	—	26.00	—	26.00	52.00
2025年9月期	—	26.00	—		
2025年9月期（予想）				9.00	—

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、2025年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。2025年9月期（予想）の期末配当金は、当該分割の影響を考慮しております。年間の配当予想につきましては、株式分割の実施により単純合計ができないため、表示しておりません。なお、株式分割前ベースでの年間配当金は1株当たり53円00銭であります。

3. 2025年9月期の連結業績予想（2024年10月1日～2025年9月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,723	26.0	812	6.9	857	6.8	700	12.8	80.46

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有

新規 2 社 (社名) ベニクス株式会社、除外 1 社 (社名) 株式会社三進

(注) 詳細は、添付資料 P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (連結範囲の重要な変更に関する注記)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料 P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料 P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更に関する注記)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2025年9月期3Q	8,712,300株	2024年9月期	8,685,600株
2025年9月期3Q	363株	2024年9月期	228株
2025年9月期3Q	8,695,271株	2024年9月期3Q	8,341,850株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

(注) 当社は、2025年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無

監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料 P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(連結範囲の重要な変更に関する注記)	8
(会計方針の変更に関する注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	8
(セグメント情報等)	9
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における連結業績は以下のとおりであります。

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、実質賃金の緩やかな改善による個人消費の持ち直しに加えて、企業による省力化投資への需要が継続したほか、インバウンド需要の伸長から緩やかな景気回復傾向にある一方で、物価上昇や米国の通商政策による影響等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは「交通インフラ事業」にて収益基盤を構築、事業の裾野を拡大し、「ファシリティ事業」で公営競技領域だけでなくファシリティ領域への事業規模拡大を図り、これらの技術、収益を基盤にして「環境事業」を推進するべく取り組んでまいりました。また、本社機能として一部利用している賃貸ビル等の不動産賃貸事業を中心とした「アセットマネジメント事業」にも取り組んでおります。

当社グループ成長戦略であるM&Aにおいては当第3四半期連結累計期間にて、ファシリティ事業にベニクス株式会社、交通インフラ事業にJes東海通建株式会社及び株式会社三進が新たにグループ化いたしました。

このようなM&A推進に加えて人材強化等の成長投資及び株主還元施策の実施を積極的に行った結果、販売費及び一般管理費が増加いたしました。また、2024年10月にベニクス株式会社、2025年4月に株式会社三進の株式を取得しグループ化したことに伴う負ののれん発生益155百万円、及び保有不動産の売却による固定資産売却益209百万円を特別利益に計上しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高8,221百万円(前年同期比25.9%増)、営業利益313百万円(前年同期比36.2%減)、経常利益342百万円(前年同期比34.0%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益413百万円(前年同期比36.4%増)となりました。

セグメント別の状況は、以下の通りであります。

当第3四半期連結累計期間より、従来「その他」に含まれていた事業セグメントである経営コンサルティングに関わる事業、不動産売買・賃貸等不動産等に関わる事業について「アセットマネジメント事業」に含め、システム保守業務、AI技術を活用したICTソリューションの提供に関わる事業については「ファシリティ事業」に含めて表示しております。

この変更は賃貸等不動産の取得によりセグメント資産の量的重要性が増したため、報告セグメントとして記載する方法に変更したことによるものであります。

<ファシリティ事業>

ファシリティ事業におきましては、大規模展示会、テレビスタジオなど幅広い場面で利用される防災合板・各種合板の加工製造・販売から、全熱交換機、空調給排水衛生設備の設計・施工・保守メンテナンスに関する事業及び公営競技場におけるトータリゼータシステムの設計・製造・販売・機器設置・メンテナンスに関わる事業やAI(人工知能)による競輪予想サービス・警備・清掃等の運営業務に関する事業を行っております。

当第3四半期連結累計期間においてグループ化いたしましたベニクス株式会社は、防災合板・各種合板の加工製造・販売をとおして、業績に寄与いたしました。

以上の結果、セグメント売上高(外部売上高)は3,900百万円(前年同期比21.0%増)、セグメント利益は427百万円(前年同期比15.6%減)となりました。

<環境事業>

環境事業におきましては、排水浄化処理及び水循環に関する事業並びに再生可能エネルギー発電設備の設計、施工、保守等業務並びに自社設備による売電に関わる事業を展開しております。当第3四半期連結累計期間において排水浄化処理及び水循環に関する事業並びに再生可能エネルギー発電設備の受注工事について共に順調に推移いたしました。

以上の結果、セグメント売上高(外部売上高)は896百万円(前年同期比36.2%増)、セグメント利益は181百万円(前年同期比117.0%増)となりました。

<交通インフラ事業>

交通インフラ事業におきましては、高速道路を中心とした道路エンジニアリング・道路メンテナンスに関する事業を展開しております。当第3四半期連結累計期間において主要顧客である高速道路運営事業者からの電気通信設備・構造物の点検・保守、高速道路の維持管理等の業務が順調に推移しました。一方で、当第3四半期連結累計期間においてグループ化いたしました株式会社三進のM&Aによる付随費用により販売費及び一般管理費が増加いたしました。

以上の結果、セグメント売上高(外部売上高)は3,150百万円(前年同期比27.0%増)、セグメント利益は479百万円(前年同期比15.8%減)となりました。

＜アセットマネジメント事業＞

アセットマネジメント事業におきましては、賃貸等不動産及び不動産売買に関わる事業、経営コンサルティングに関わる事業を展開しております。当3四半期連結会計期間において、新賃貸ビルの取得に伴う関連費用等の計上があったもののセグメント利益はプラスとなりました。

以上の結果、セグメント売上高（外部売上高）は274百万円（前年同期比163.9増）、セグメント利益は3百万円（前年同期比806.8%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末より5,033百万円増加して、14,292百万円となりました。

流動資産残高は、前連結会計年度末に比べて1,206百万円増加し、4,461百万円となりました。主な要因は、現金及び預金が267百万円、棚卸資産が716百万円増加したこと等によるものであります。

固定資産の残高は、前連結会計年度末に比べて3,828百万円増加し、9,830百万円となりました。主な要因は、減価償却累計額が940百万円増加した一方で、建物及び構築物が4,357百万円、土地が970百万円増加したこと等により有形固定資産が3,401百万円増加したことによるものであります。

流動負債の残高は、前連結会計年度末に比べて510百万円増加し、2,805百万円となりました。主な要因は、短期借入金が270百万円、賞与引当金が76百万円、未払法人税等が127百万円増加したこと等によるものであります。

固定負債の残高は、前連結会計年度末に比べて4,234百万円増加し、5,724百万円となりました。主な要因は長期借入金が4,060百万円増加したこと等によるものであります。

純資産の残高は、前連結会計年度末に比べて289百万円増加し、5,762百万円となりました。主な要因は、利益剰余金が262百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、当第3四半期連結会計期間末における自己資本比率は、前連結会計年度末より18.6ポイント下降し、39.7%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点における連結業績予想につきましては、2025年5月15日に公表いたしました業績予想から変更ありません。また現時点における配当予想に関しましても、2024年11月14日に公表いたしました配当予想から変更ありません。

本資料に記載されている業績見通し等の将来予測に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	966,179	1,233,306
電子記録債権	115,851	65,353
受取手形、売掛金及び契約資産	1,677,269	1,450,715
棚卸資産	337,119	1,053,443
その他	159,254	658,997
流動資産合計	3,255,675	4,461,816
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,169,861	6,527,510
機械装置及び運搬具	1,860,481	2,135,576
工具、器具及び備品	802,530	931,792
土地	1,653,269	2,623,423
その他	1,479,813	89,830
減価償却累計額	△2,844,229	△3,784,529
有形固定資産合計	5,121,725	8,523,604
無形固定資産	183,886	321,953
投資その他の資産	696,903	985,417
固定資産合計	6,002,516	9,830,975
繰延資産	980	—
資産合計	9,259,172	14,292,791

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	539,119	453,631
電子記録債務	30,603	34,972
短期借入金	400,000	670,000
1年内償還予定の社債	57,000	57,000
1年内返済予定の長期借入金	484,791	557,613
賞与引当金	29,761	106,122
未払法人税等	99,946	227,239
その他	654,093	698,822
流動負債合計	2,295,313	2,805,402
固定負債		
社債	58,000	29,500
長期借入金	911,671	4,971,977
退職給付に係る負債	51,232	97,931
資産除去債務	98,810	99,122
その他	370,606	526,312
固定負債合計	1,490,320	5,724,843
負債合計	3,785,634	8,530,245
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000,497	1,004,947
資本剰余金	911,608	916,058
利益剰余金	3,477,839	3,740,316
自己株式	△331	△530
株主資本合計	5,389,613	5,660,791
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,451	10,584
その他の包括利益累計額合計	4,451	10,584
非支配株主持分	79,473	91,170
純資産合計	5,473,537	5,762,546
負債純資産合計	9,259,172	14,292,791

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)
売上高	6,531,236	8,221,555
売上原価	4,665,125	6,015,738
売上総利益	1,866,111	2,205,817
販売費及び一般管理費	1,374,407	1,892,221
営業利益	491,703	313,595
営業外収益		
固定資産売却益	9,075	11,183
補助金収入	10,171	9,786
債務勘定整理益	8,563	—
保険解約返戻金	8,731	11,653
その他	18,148	20,558
営業外収益合計	54,690	53,181
営業外費用		
支払利息	7,930	22,398
株式交付費	12,825	—
その他	6,837	2,009
営業外費用合計	27,592	24,407
経常利益	518,801	342,369
特別利益		
固定資産売却益	21,520	209,081
投資有価証券売却益	—	2,386
負ののれん発生益	—	155,108
特別利益合計	21,520	366,576
特別損失		
固定資産除却損	3,672	1,372
投資有価証券売却損	—	2,375
特別損失合計	3,672	3,747
税金等調整前四半期純利益	536,649	705,199
法人税等	220,952	280,248
四半期純利益	315,696	424,950
非支配株主に帰属する四半期純利益	12,666	11,696
親会社株主に帰属する四半期純利益	303,029	413,253

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)
四半期純利益	315,696	424,950
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,003	6,133
その他の包括利益合計	△3,003	6,133
四半期包括利益	312,693	431,084
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	300,026	419,387
非支配株主に係る四半期包括利益	12,666	11,696

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結範囲の重要な変更に関する注記)

第1四半期連結会計期間においてベニクス株式会社の全株式を取得したことに伴い、同社を連結の範囲に含めております。

また、当第3四半期連結会計期間において、株式会社三進の全株式を取得したことに伴い、連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更に関する注記)

当第3四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)	
(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)	
「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」といいます。)等を当第3四半期連結会計期間の期首から適用しております。	
法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による第3四半期連結財務諸表への影響はありません。	
また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を当第3四半期連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前第3四半期連結会計期間及び前連結会計年度については遡及適用後の第3四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前第3四半期連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。	

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

当第3四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)	
税金費用の計算	税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間（自 2023年10月1日 至 2024年6月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額
	ファシリティ事業	環境事業	交通インフラ事業	アセットマネジメント事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	3,224,439	658,049	2,481,559	167,188	6,531,236	—	6,531,236
セグメント間の内部売上高又は振替高	22,723	48	10,182	12,525	45,479	△45,479	—
計	3,247,163	658,097	2,491,742	179,713	6,576,716	△45,479	6,531,236
セグメント利益	506,364	83,483	569,525	401	1,159,775	△668,072	491,703

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントである経営コンサルティングに関わる事業、システム保守業務、AI技術を活用したICTソリューションの提供に関わる事業及び不動産売買、賃貸等不動産に関わる事業であります。
2. セグメント利益の調整額△668,072千円にはセグメント間取引消去等3,257千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△671,329千円が含まれております。なお、全社費用の主な内容については、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「ファシリティ事業」セグメントにおいて、第2四半期連結会計期間に株式会社エコベンの株式を取得し、連結の範囲に含めたことに伴いのれんが28,709千円発生し増加しております。

なお、負ののれん発生益は特別利益のため、セグメント利益には含まれておりません。

当第3四半期連結累計期間（自 2024年10月1日 至 2025年6月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ファシリティ事業	環境事業	交通インフラ事業	アセットマネジメント事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	3,900,725	896,111	3,150,640	274,078	8,221,555	—	8,221,555
セグメント間の内部売上高又は振替高	25,806	—	15,358	13,005	54,170	△54,170	—
計	3,926,531	896,111	3,165,999	287,083	8,275,726	△54,170	8,221,555
セグメント利益	427,504	181,171	479,588	3,643	1,091,908	△778,312	313,595

- (注) 1. セグメント利益の調整額△778,312千円にはセグメント間取引消去等△6,543千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△771,769千円が含まれております。なお、全社費用の主な内容については、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、従来「その他」に含まれていた事業セグメントである経営コンサルティングに関する事業、不動産売買・賃貸等不動産等に関わる事業について「アセットマネジメント事業」に含め、システム保守業務、AI技術を活用したICTソリューションの提供に関わる事業については「ファシリティ事業」に含めて表示しております。この変更は賃貸等不動産の取得によりセグメント資産の量的重要性が増したため、報告セグメントとして記載する方法に変更したことによるものであります。

なお、前第3四半期連結会計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「交通インフラ事業」セグメントにおいて、第3四半期連結会計期間にJes東海通建株式会社の株式を取得し、連結の範囲に含めたことに伴いのれんが150,000千円発生し増加しております。

なお、Jes東海通建株式会社に関わるのれんの金額は、当第3四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(重要な負ののれんの発生益)

「ファシリティ事業」セグメントにおいて、第1四半期連結会計期間にベニクス株式会社の株式を取得し、連結の範囲に含めたことに伴い、149,292千円の負ののれん発生益を計上しており、また、「交通インフラ事業」セグメントにおいて、当第3四半期連結会計期間に株式会社三進の株式を取得し、連結の範囲に含めたことに伴い、5,815千円の負ののれん発生益を特別利益に計上しております。

なお、負ののれん発生益は特別利益のため、セグメント利益には含まれておりません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	236,863千円	394,108千円
のれんの償却額	37,563 "	24,001 "